

千曲中央病院 リハビリテーション科

臨床実習指導マニュアル

1. 臨床実習における教育目標

指導者のもと臨床の場で、これまでに学習した知識、技術の深化・統合を図る。
また、地域における当院リハビリテーション科の役割および当院におけるセラピストの役割と責任を理解し、医療人・社会人としての自覚をもった行動を身につける。

2. 臨床実習指導の方法

- ・学生は、指導者の助手として診療に参加させる。
- ・指導者の患者を共に担当する中で、学生の習得すべき技術項目を、説明を加えながら「見学」させ、具体的な指示を与えながら「模倣」を繰り返し、実用的なレベルに達したと判断したら「実施」として、学生の状態を把握したうえで段階的に診療の一部から受け持たせていく。
- ・チェックリストを用い、技術項目ごとに診療参加のレベルを確認し、計画的な指導を行う。

	学生	指導者
見学 Modeling	<ul style="list-style-type: none">・解説を受けながら、指導者の技術を観察している。・観察した技術を理解しようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・解説しながら技術を見せる。 (手本を示す)
模倣前期 Coaching	<ul style="list-style-type: none">・観察した技術を、手取り足取りの技術を受けながら実施している。・指導者が行う技術を、部分的に手伝っている。	<ul style="list-style-type: none">・技術を見せた（手本を示した）後に、実際に学生に行わせる。
模倣後期 Scaffolding	<ul style="list-style-type: none">・不十分な部分の指導・支援を受けながら技術を実施している。	<ul style="list-style-type: none">・学生にできる部分は独力でやらせて、できない部分の指導を行う。・学生が行う技術を、部分的にフォローする。
実施 Fading	<ul style="list-style-type: none">・指導者の見守りや助言を受けながら、独力で実施している。	<ul style="list-style-type: none">・指導の手を引き、学生が行う技術を見守る。

3. 臨床実習指導上の留意点

- ① 患者へは、学生が診療に参加することを事前に伝え、承諾を得る。
- ② 実習開始早期より、患者に直接接触しない環境の整備や準備、移動や移乗の介助などの診療の周辺業務から積極的に参加を促す。
- ③ 診療への参加にあたっては、実習生に合わせて難易度を調整し、なるべく成功体験を積むことができるようにする。また、事前に具体的な指示を与えるなどして、円滑に診療参加できるよう準備する。
- ④ 患者と接する際の心構え、態度、言葉遣いを指導し、手本となる。
- ⑤ 感染予防の観点から、標準予防策および当院の感染対策マニュアルを徹底するよう指導する。
- ⑥ 患者、治療に関する守秘義務について指導し、カルテの閲覧、メモの扱い等には十分な配慮を促す。
- ⑦ 実習時間は17:00までとし、17:00～17:30を1日のまとめ（フィードバック）の時間とする。また、フィードバックは診療への参加場면을有効に利用するなど可能な限り業務時間内に行えるよう配慮し、ポイントを絞った指導を心掛ける。
- ⑧ 複数の療法士が学生指導に関わる場合には、療法士間の役割をきちんと明示し、窓口が指導者に集約されるよう配慮しておく。
- ⑨ 学生が体調不良の場合は無理をさせず、主任・副主任に報告・相談のうえ、必要に応じ受診を促す。
- ⑩ 実習が順調に進行していないとき、あるいは順調に進行しそうでないときには、早めに主任・副主任に報告する。養成校への連絡を要する場合は、主任・副主任よりセンター長または主任に報告する。
- ⑪ 実習開始前には、各養成校の実習の手引きを参照し、当該実習の目的と内容を確認しておく。

4. 臨床実習の内容

1) 見学・体験実習（1年次）

- 目的：① 当院の役割、セラピストの役割と業務内容および他職種の役割を理解する。
② 患者および病院スタッフに医療チームの一員として適切な態度で接することを学ぶ。

内容：

	AM	PM
1日目（月）	開始時オリエンテーション 院内見学 臨床見学・体験	臨床見学・体験
2日目（火）	臨床見学・体験	内科カンファレンス見学 臨床見学・体験
3日目（水）	訪問リハビリ見学	脳外科カンファレンス見学 臨床見学・体験
4日目（木）	通所リハビリ見学	他療法見学
5日目（金）	臨床見学・体験	臨床見学・体験 最終オリエンテーション

※ その他 地域支援事業見学を開催日に合わせて実施
スケジュールは適宜変更あり

2) 評価実習（2・3年次）

- 目的：① 基本的な評価・治療を患者に対して適切に実施することを学ぶ。
② 評価によって得られた仮説を治療後に再評価し、仮説が正しかったかどうかを検証する過程を含めて、学ぶ。

内容：

1週目	開始時オリエンテーション 指導者とともに評価・治療の見学・体験を開始
	担当症例を中心に他療法見学 カンファレンス参加 (状況に応じ、地域支援事業見学)
最終週	(状況に応じ、通所・訪問リハビリ見学) 最終オリエンテーション

3) 総合臨床実習 (4年次)

- 目的： ① 評価実習の内容に加え、患者の障害像の全体像を把握し、ゴール・プログラム立案についても学ぶ。
- ② 当院におけるセラピストの役割や医療・社会におけるセラピストの役割と責任について理解し、自覚をもった行動・態度を身につける。

内容：

1 週目	開始時オリエンテーション 指導者とともに評価・治療の見学・体験を開始
	担当症例を中心に他療法見学 カンファレンス参加 地域支援事業見学
最終週	通所・訪問リハビリ見学 最終オリエンテーション

平成 27 年 4 月 1 日

平成 30 年 4 月 1 日

平成 31 年 1 月 25 日